

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2011-56141

(P2011-56141A)

(43) 公開日 平成23年3月24日(2011.3.24)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)  
 A 4 5 D 20/12 (2006.01) A 4 5 D 20/12 J 3 B 0 4 0

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2009-211074 (P2009-211074)	(71) 出願人	501305338
(22) 出願日	平成21年9月11日 (2009.9.11)		北野 晴行
			栃木県宇都宮市今泉 3-2-17
		(74) 代理人	100129056
			弁理士 福田 信雄
		(72) 発明者	北野 晴行
			栃木県宇都宮市今泉 3丁目2番17号
		Fターム(参考)	3B040 CH01 CH04

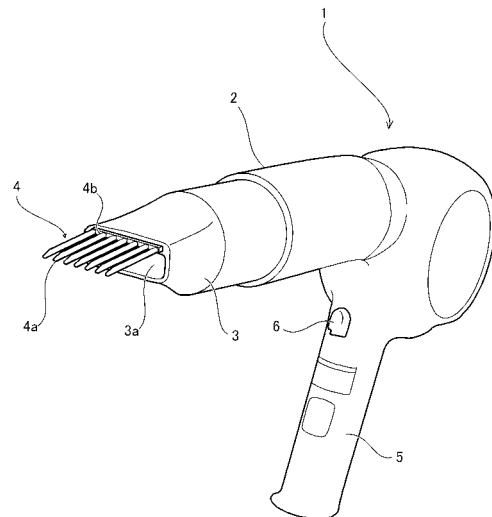
(54) 【発明の名称】 ヘアドライヤー

(57) 【要約】

【課題】 髪のカセ付け等の際し、ドライヤーを片手で持った状態で、もう一方の片手を自由に使用することが可能であるヘアドライヤーの提供を図る。

【解決手段】 ヘアドライヤー1において、送風口3に、挟持部4aを有するアタッチメント4が備え付けられるとともに、該挟持部4aが自在に形状変化することが可能である構成となっている。かかる挟持部4aは、ヘアドライヤー1の把持部5に設けられた操作部6を操作することにより、あるいは、送風口3aからの温風・冷風の送風温度に対応して、巻き込み状や略直立状に形状変化する。

【選択図】 図1



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

ヘアドライヤーにおいて、送風口に挟持部を有するアタッチメントが備え付けられるとともに、該挟持部を自在に形状変化することが可能であることを特徴とするヘアドライヤー。

## 【請求項 2】

前記ヘアドライヤーにおいて、把持部における手動操作により、前記挟持部の形状変化を行う構造であることを特徴とする請求項 1 に記載のヘアドライヤー。

## 【請求項 3】

前記ヘアドライヤーにおいて、前記挟持部における少なくとも芯部を形状記憶合金で構成することにより、送風口から送出する温風あるいは冷風に伴って前記挟持部の形状変化を行う構造であることを特徴とする請求項 1 に記載のヘアドライヤー。

10

## 【請求項 4】

前記ヘアドライヤーにおいて、前記アタッチメントが、前記送風口に対し、着脱自在であることを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれかに記載のヘアドライヤー。

## 【請求項 5】

前記ヘアドライヤーにおいて、前記挟持部が、櫛状、ブラシ状、あるいは、こて状のいずれかであることを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれかに記載のヘアドライヤー。

## 【発明の詳細な説明】

20

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、ヘアドライヤーに関し、詳しくは、髪のカセ付けなど種々の用途に応用可能なヘアドライヤーに関するものである。

## 【背景技術】

## 【0002】

ヘアドライヤーは、濡れた毛髪を乾燥させたり、髪型をセットする際に使用される。ところで、従来のヘアドライヤーは、温風あるいは冷風のいずれか一方を切替えにより送風するものが主流であり、髪型をセットする際には、ブラシ等をあてがった毛髪部分に対し、その温風と冷風とを上手く使い分けることで、髪のカセ付けが行われている。すなわち、ドライヤー使用者の片手はブラシ、もう一方の片手はドライヤーを持つこととなり、両手が塞がった状態となってしまう。したがって、そこへ手間を加えようとした場合に、使用者の両手は塞がっているため、他人の手を借りる必要があった。

30

## 【0003】

【特許文献 1】実開平 1 - 155901 号公報

【特許文献 2】実開平 1 - 153103 号公報

【特許文献 3】実開昭 63 - 48503 号公報

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0004】

40

そこで本発明は、上記問題点に鑑みてなされたものであって、髪のカセ付けや、その他種々の用途に対し、ドライヤーを片手で持った状態で、もう一方の片手を自由に使用することが可能であるヘアドライヤーを提供することを課題とするものである。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0005】

前記課題を解決するため、本発明は、ヘアドライヤーにおいて、送風口に挟持部を有するアタッチメントが備え付けられるとともに、該挟持部を自在に形状変化することが可能である構成となっている。

## 【0006】

また、本発明は、前記ヘアドライヤーにおいて、把持部における手動操作により、前記

50

挟持部の形状変化を行う構造を採用し得る。

【0007】

さらに、本発明は、前記ヘアドライヤーにおいて、前記挟持部における少なくとも芯部を形状記憶合金で構成することにより、送風口から送出する温風あるいは冷風に伴って前記挟持部の形状変化を行う構造を採用し得る。

【0008】

またさらに、本発明は、前記ヘアドライヤーにおいて、前記アタッチメントが、前記送風口に対し、着脱自在である構造とすることが考え得る。

【0009】

そしてまた、本発明は、前記ヘアドライヤーにおいて、前記挟持部が、櫛状、ブラシ状、あるいは、こて状のいずれかである構造とすることができる。

10

【発明の効果】

【0010】

本発明によれば、ドライヤー使用者が片手でドライヤーを持ちながら、もう一方の片手を使用することなく同時に髪のカセ付けを容易に行うことが可能となる。したがって、自由なもう一方の片手を使用して、髪のカセ付け部分の微調整や、薬品の塗布など、毛髪にもう一手間加えたりすることが自由にできるという、従来にない優れた効果を奏するものである。

【0011】

また、本発明によれば、アタッチメントを種々交換することで、必要に応じた種類の挟持部に自由に変更することが可能であり、髪のカセ付けに必要な櫛状やブラシ状、こて状の挟持部とするだけでなく、形状変化を応用可能な挟持部を備えるアタッチメントへの交換も可能であり、例えば、数本の指状の挟持部を備えるアタッチメントに交換することで、ヘアドライヤーを使って物品を掴むことも可能となる。

20

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下、本発明にかかるヘアドライヤー1の実施形態について、図面を参照しながら詳細に説明する。

【0013】

図1は、本発明にかかるヘアドライヤー1の実施形態を示す斜視図である。

30

本実施形態におけるヘアドライヤー1は、図面に示すように、ドライヤー本体2の先端に取付けられた送風ノズル3の送風口3aに、アタッチメント4が備え付けられた構成となっている。

【0014】

アタッチメント4は、挟持部4aと基部4bとからなり、該基部4bに挟持部4aの一端が接合された構成となっている。そしてまた、該挟持部4aは、自在に形状変化することが可能な構造となっている。

【0015】

なお、挟持部4aの形状については、毛髪のカセ付けに適した種々のものが考えられ、例えば図2に示されているようなものが考え得る。すなわち、図2(a)は挟持部4aが櫛状である場合、図2(b)は挟持部4aがブラシ状である場合、図3(c)は挟持部4aがこて状である場合について示している。

40

【0016】

該挟持部4aの形状変化のための構造については、例えば、ヘアドライヤー1の把持部5に手動操作の操作部6を設け、該操作部6を操作することで、ワイヤー等を介して、挟持部4aの形状を適宜変化させる構造が考えられる。

【0017】

これを、挟持部4aが図2(a)に示す櫛状である場合について説明すると、例えば、把持部5を把持している手のうち一本の指で前記操作部6を操作することにより、ヘアドライヤー1内に備えられたワイヤー等の操作機構が操作され、図3(b)に示すように、

50

櫛状の挟持部 4 a が巻き込み状に形状変化し、反対に該操作部 6 を逆操作すると、操作機構が自然と元に戻って、図 3 ( a ) に示すように、櫛状の挟持部 4 a が略直立状に形状変化する。そして、該挟持部 4 a の巻き込み力については、操作部 6 の押圧の強弱により可変可能となる。

【 0 0 1 8 】

なお、かかる挟持部 4 a の形状変化のための構造については、ヘアドライヤー 1 の把持部 5 に操作部 6 を設けて、該操作部 6 を操作して挟持部 4 a の形状を変化させる構造であれば、上記した構造に限定されるものではない。

【 0 0 1 9 】

あるいは、該挟持部 4 a の形状変化のための構造について、例えば、前記挟持部 4 a における少なくとも芯の部分を形状記憶合金によって構成させることにより、送風口 3 a から送出する温風あるいは冷風に伴って、前記挟持部 4 a の形状を適宜変化させる構造を採用することが考えられる。

10

【 0 0 2 0 】

これを、挟持部 4 a が図 2 ( a ) に示す櫛状である場合について説明すると、例えば、ヘアドライヤー 1 の送風を温風と冷風とで適宜切り替えることで、櫛状の挟持部 4 a が巻き込み状になったり直立状になったりと、送風の温度に反応して形状変化をすることとなる。

詳しくは、ヘアドライヤー 1 から温風を送風することにより、櫛状の挟持部 4 a はその送風の温度に反応して、図 3 ( b ) に示すように、巻き込み状に形状変化する。逆に、ヘアドライヤー 1 から冷風を送風すると、図 3 ( a ) に示すように、櫛状の挟持部 4 a は冷却されて略直立状に形状変化することとなる。

20

【 0 0 2 1 】

上記において、挟持部 4 a の形状変化の態様について、温風で巻き込み状に変化するとともに、冷風で略直立状に形状変化する場合について述べたが、温風及び冷風に反応して挟持部 4 a がどのような状態へ形状変化するかについては、特に限定するものではない。

【 0 0 2 2 】

なお、前記挟持部 4 a が櫛状あるいはブラシ状である場合に、その挟持部 4 a の形状変化の態様について、操作部 6 を操作する場合並びに形状記憶合金による場合のいずれにおいても、該挟持部 4 a の中央部は毛髪 H を掴むように巻き込み状に形状変化するとともに、該挟持部 4 a の両端部は内側 ( 中央部方向 ) へ形状変化する態様が考え得る。

30

かかる態様とすることで、毛髪 H を挟持部 4 a で巻き込む際に、前記中央部の掴んだ毛髪 H が外側に拡がって両サイドに逃げないように、挟持部 4 a の両端部で両脇から挟み込むことで、確実に毛髪 H を巻き込んだ状態でクセ付け等作業を行うことが可能となる。

【 0 0 2 3 】

前記アタッチメント 4 については、前記送風口 3 に対し、固定的であると着脱可能であるとを問うものではない。ただし、該アタッチメント 4 を着脱自在である構成を採用することにより、該アタッチメント 4 を送風口 3 から取り外して、通常のヘアドライヤー 1 として使用することもでき、また、用途に併せて種々の挟持部 4 a を備えるアタッチメント 4 の中から、選択されたアタッチメント 4 を適宜送風口 3 に取り付けることで、各用途に応じた使い回しが可能となる。

40

【 0 0 2 4 】

以上の通り構成される本発明にかかるヘアドライヤー 1 について、ヘアセットに際しての使用状態を図 4 に示す。

すなわち、まず初めにクセ付け等をする毛髪 H の部分に、アタッチメント 4 の挟持部 4 a の先端部をあてがい、その状態で挟持部 4 a により毛髪 H を巻き込むべく、把持部 5 の操作部 6 を押し操作するか、あるいは、ヘアドライヤー 1 の送風口 3 a から温風を送風する。すると、操作部 6 に連動して、あるいは、温風の温度に反応して、挟持部 4 a が巻き込み状へと徐々に形状変化することとなる。このとき、該挟持部 4 a は、あてがった毛髪 H を巻き込みながら巻き込み状となる。

50

## 【0025】

毛髪Hを挟持部4aが巻き込んだ状態で、場合によってはヘアドライヤー1自体で角度もつけながら、クセ付けのためにしばらく温風を送風した後、操作部6の押圧を弱めつつ冷風を送風するか、あるいは、単に冷風を送風する。すると、操作部6の押圧に連動して、あるいは、該冷風の温度に反応して、挟持部4aが略直立状へと徐々に形状変化するとともに、該挟持部4aが巻き込んだ毛髪Hを冷風で冷やしながらかつ、そのクセ付けが固定化されることとなる。そして、挟持部4aが完全に略直立状となった段階で、該アタッチメント4の挟持部4aの先端部を毛髪Hから離すことで、一連の作業は終了する

## 【0026】

以上のように、本発明にかかるヘアドライヤー1によれば、ヘアドライヤー1を持ったまま、その片手のみで髪型のセットを容易にすることができるため、空いたもう一方の片手を自由に使用することが可能であり、髪のカセ付け部分の微調整や、薬品の塗布など、毛髪にもう一手間加えたりすることを自由に行うことができる。

そしてまた、温風でセットした毛髪を冷風により固めるという一連の作業を、容易かつ即座に行うことが可能である。

## 【0027】

なお、本発明にかかるヘアドライヤー1の使用態様については、上記した図4に示すヘアセットの態様に限定されるものではない。例えば、数本の指状の挟持部4aを備えるアタッチメント4を取り付けることで、ヘアドライヤー1を使って手の届かない場所等の物品を掴むことも可能になるなど、形状変化を応用可能な挟持部4aを備えるアタッチメント4への交換することで、様々な用途態様が考え得る。

## 【産業上の利用可能性】

## 【0028】

本発明にかかるヘアドライヤー1は、簡単な構造であって、かつ、髪型をセットする際の毛髪Hのカセ付けや、形状変化を応用可能な用途に対し、ヘアドライヤー1を持った片手のみで容易に作業をすることができるものであって、理美容界等においても個人的にも十分に使用価値があり、本発明の産業上の利用可能性は非常に大きいといえる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【0029】

【図1】本発明にかかるヘアドライヤーの実施形態を示す斜視図である。

【図2】本発明にかかるヘアドライヤーの実施形態を示す斜視図である。

【図3】本発明にかかるヘアドライヤーの実施形態を示す説明図である。

【図4】本発明にかかるヘアドライヤーの使用形態を示す説明図である。

## 【符号の説明】

## 【0030】

- 1 ヘアドライヤー
- 2 ドライヤー本体
- 3 送風ノズル
- 3a 送風口
- 4 アタッチメント
- 4a 挟持部
- 4b 基部
- 5 把持部
- 6 操作部
- H 毛髪

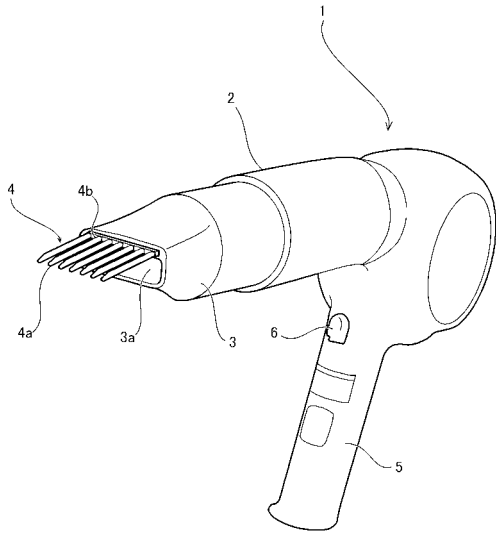
10

20

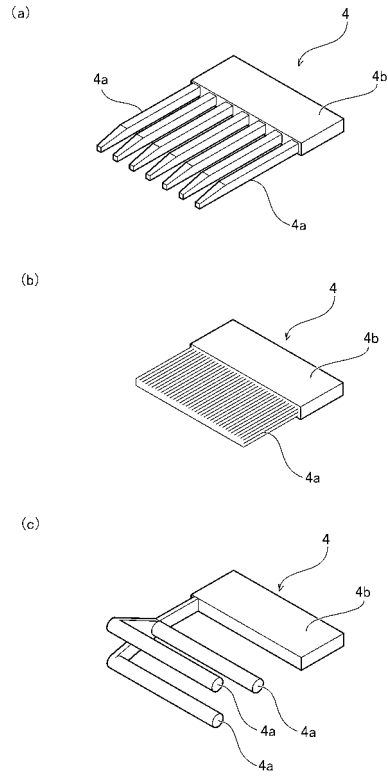
30

40

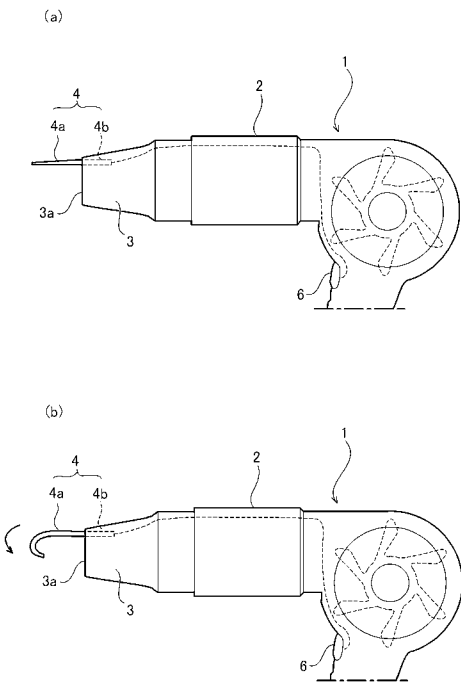
【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】

